

私立大学研究ブランディング事業
「エコ農業ブランディングによる発展的地域創成モデルの形成」
令和元年度研究中間報告

課題5 レクリエーション利用による里山管理

担当者：森野 真理

■令和元年度（最終年度）の達成目標

本研究の最終目標は、里山が管理されることで得られる文化サービスについて評価することである。本年度は、レクリエーション活動参加者の意識、および身近な生物相の多様性について明らかにする。

■令和元年度（最終年度）の進捗状況（9月末時点）

9月末時点での進捗状況は、下記のとおりである。

（1）レクリエーション活動参加者の意識

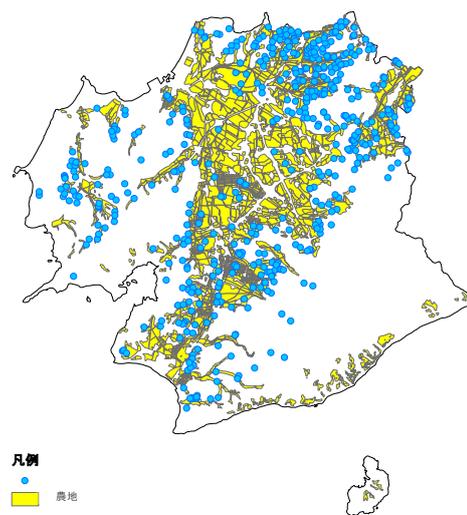
対象地では、月に1度レクリエーション活動が行われている。参加者の多くは、年少者とその保護者である。保護者を対象とし、活動参加者の参加回数、参加目的、参加して良かった点、その他要望などについて、直接対面式アンケート調査を行った。調査は、2019年8月から開始し（現時点で7サンプル）、12月まで継続調査する予定である。

（2）身近な生物相の多様性

対象地の里山内には小規模のため池があることで、希少な昆虫等が目撃されている。そこで、今回は、南あわじ市のため池データベースを用いて、トンボ類の生息に潜在的に適したため池を抽出し、対象地の里山を含めた10～20地点のため池にてトンボ類の生息状況を確認する。管理状況や周辺環境の違いが、トンボ類の生息との関連性について考察する。9月末時点では、南あわじ市のため池のうち、347地点についてGIS用のデータセットを整備した段階である。



タケを使用したレクリエーション活動



南あわじ市におけるため池位置図